旭川医科大学　回顧資料（11）　昭和58年度

6月に開学10周年記念行事を盛大に挙行

まずは、昭和58（1983）年度の出来事で多くの国民の記憶に残っていると思われるものをあげてみよう。

４月15日に千葉県浦安市に東京ディズニーランドが開園した。アメリカのそれの二番煎じだ、とか、千葉県にあるのになぜ東京と銘打っているのか、とか、いろいろ揶揄する向きもあったが、入場者数は順調に伸びていった。６月26日には参議院議員選挙が実施され、全国区に初の比例代表制が導入された。従来の全国区は交通費・ポスター代など候補者に費用がかかり過ぎ、全国区は「銭酷区」あるいは「残酷区」などと揶揄されていたが、そんな状況からの脱出を意図した制度変更であった。

７月15日、任天堂がファミリーコンピュータ（ファミコン）を発売し、たちまち、子供ばかりでなく大人までもがその虜（とりこ）になった。９月１日には、ソ連領空を侵犯した大韓航空機をソ連空軍機が撃墜し、日本人28人を含む269人が死亡した。大韓機がなぜ領空を侵犯したのか、いまだに謎とされている。

４月に始まったＮＨＫの朝のドラマ（いわゆる朝ドラ）「おしん」（橋田壽賀子原作）は、９月24日に歴代最高視聴率65％を記録した。そのヒロインおしん（配役は小林綾子・田中裕子・乙羽信子の３人）と、この年のＮＨＫ大河ドラマの主人公徳川家康（配役は滝田栄）、それに大相撲の世界で最高位に登り詰めた遅咲きの隆の里（第59代横綱）が、いずれも辛抱強い性格だったことから、彼らにあやかるべしとの教訓が込められた「おしん、家康、隆の里」がこの年の流行語のひとつとなった。

他にこの年の流行語としては、「いいとも」「ちゃっぷい、ちゃっぷい」「まいあがる」などがあった。ヒット曲には、大川栄策の「さざんかの宿」、細川たかしの「矢切の渡し」、わらべの「めだかの兄弟」、日野美歌の「氷雨」などがあった。

さて、この年、旭川医科大学では、開学10周年記念行事が盛大に挙行された。開催日は大学祭期間（６月16日～20日）の前日にあたる６月15日（水曜日）であった。

まず10時30分より付属病院前庭において記念植樹式が行われ、北大演習林や本学同窓会などから寄贈されたイチイ、エゾヤマザクラ、アカエゾマツなど100本余りが構内各地に移植された。担当責任者は森茂美実験実習機器センター長・生理学第二講座教授（当時）であった。

次いで13時より旭川市民文化会館大ホールにおいて、記念公開講演会が、一般市民約1200名を集めて開催された。担当責任者は石井兼央図書館長・内科学第二講座教授（当時）であった。演者は日野原重明聖路加看護大学長・本学参与（当時）と本学の清水哲也産婦人科学講座教授（当時）で、日野原氏の演題は「心と身体の健康づくりの習慣化」、清水氏のそれは「体外授精の現状と問題点」であった（ちなみに今日では「体外受精」と書かれることが多いが、当時の資料によると「体外授精」となっている）。

さらに16時から、会場をニュー北海ホテルに移して記念式典が挙行された。黒田一秀学長（当時）の式辞に次いで、文部大臣・北大学長・北海道知事・旭川市長・旭川医科大学設置協力会会長より祝辞があった。担当責任者は小野寺壮吉副学長・内科学第一講座教授（当時）であった。さらに17時からは同ホテルで祝賀会が催された。担当責任者は吉岡一副学長・小児科学講座教授（当時）であった。これらの式典・祝賀会には、本学の創設に尽力された方々、当時の本学職員・旧職員など、約200名が参会した。

（歴史・哲学　藤尾　均）